

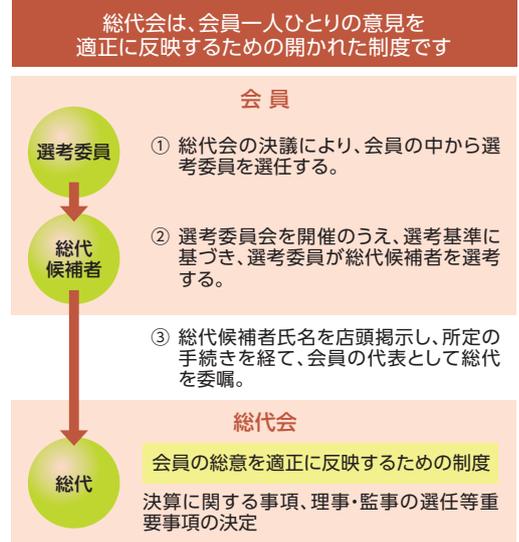
# 総代会等に関する情報開示

## 総代会制度について

信用金庫は、会員同士の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本理念に、会員一人ひとりの意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって、会員は出資口数に関係なく、一人1票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することとなります。しかし、当金庫では、会員数がたいへん多く、総会の開催は事実上不可能です。そこで、当金庫では、会員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

この総代会は、決算、取扱業務の決定、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって、総代会は、総会と同様に、会員一人ひとりの意見が当金庫の経営に反映されるよう、会員の中から適正な手続きにより選任された総代により運営されます。

また、当金庫では、総代会に限定することなく、日常の事業活動を通じて、総代や会員とのコミュニケーションを大切に、さまざまな経営改善に取り組んでおります。



## 総代会制度について

### 1. 総代の任期・定数

- ・総代の任期は3年です。
- ・総代の定数は100人以上150人以内で、会員数に応じて選任区域ごとに定められております。なお、2024年3月末現在の総代数は119人で、会員数は50,453人です。

### 2. 総代の選任方法

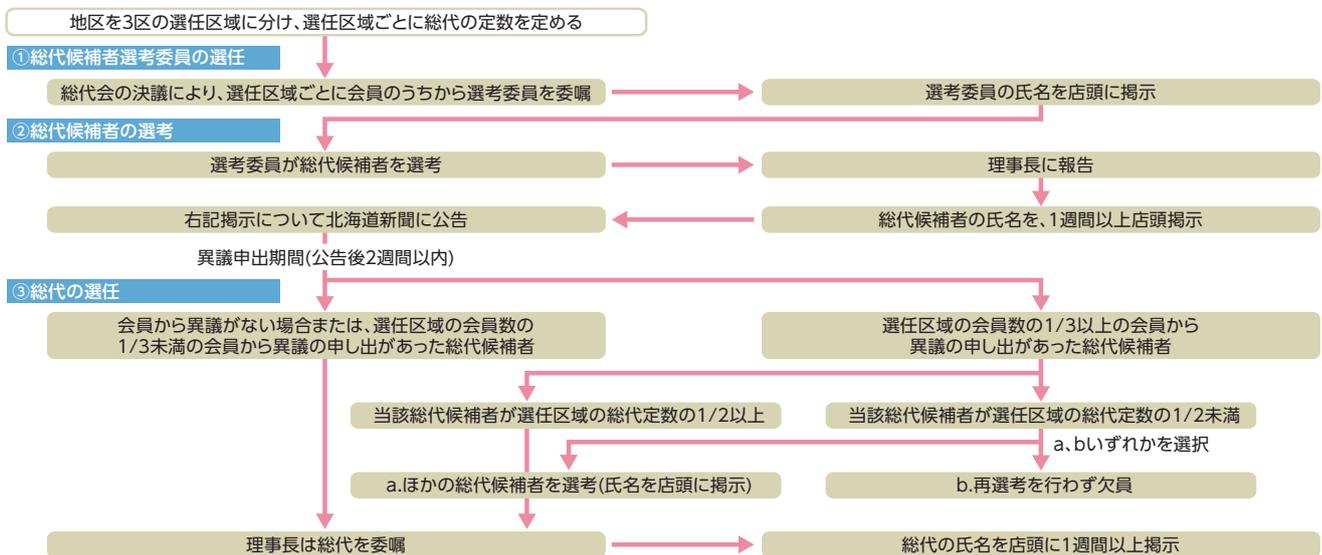
総代は、会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映する重要な役割を担っております。そこで総代の選考は、総代候補者選考基準に基づき、次の3つの手続きを経て選任されます。

- (1) 総代会の決議により、会員の中から総代候補者選考委員を選任する。
- (2) 選考委員会を開催のうえ、総代候補者選考委員が総代候補者を選考する。
- (3) 上記(2)により選考された総代候補者を会員が信任する(異議があれば申し立てる)。

**※ 総代候補者選考基準**

- ① 資格要件
  - ・当金庫の会員であること
  - ・就任時点で満80歳を超えていない方
- ② 適格要件
  - ・総代としてふさわしい見識を有している方
  - ・良識を持って正しい判断ができる方
  - ・人格に優れ、金庫の理念、使命を十分理解している方
  - ・その他、総代選考委員が適格と認めた方

### 総代が選任されるまでの手続きについて



## 第88回通常総代会の決議事項

第88回通常総代会(2024年6月10日開催)において、次の事項が決議されました。

1. 報告事項
  - ・第111期(2023年度)業務報告、貸借対照表ならびに損益計算書報告の件
2. 付議事項
  - ・第111期(2023年度)剰余金処分案承認の件
  - ・定款一部変更の件
  - ・会員除名の件
  - ・理事選任の件
  - ・監事選任の件
3. 協議事項
  - ・第112期(2024年度)事業計画の件

## 総代の氏名

(敬称略、五十音順 氏名の後の数字は総代への就任回数)

選任区	定数 (現総代数)	氏名					
1区 (旭川地区)	98 (96)	秋島 和彦 <sup>⑫</sup>	荒井 保明 <sup>⑦</sup>	荒尾 孝司 <sup>⑧</sup>	石山 実 <sup>④</sup>	井上 雅之 <sup>①</sup>	
		猪股 武 <sup>③</sup>	今井 茂治 <sup>⑥</sup>	薄井タカ子 <sup>①</sup>	遠藤 穰 <sup>①</sup>	及川 浩和 <sup>①</sup>	
		大隅 卓也 <sup>⑧</sup>	太田 早苗 <sup>②</sup>	岡田 佑一 <sup>⑦</sup>	落合 博志 <sup>⑦</sup>	表 豊 <sup>⑪</sup>	
		柏葉 健一 <sup>④</sup>	加藤 範幸 <sup>⑥</sup>	金谷 和文 <sup>⑨</sup>	川島 崇則 <sup>⑥</sup>	川村 純一 <sup>③</sup>	
		岸井 康祐 <sup>⑤</sup>	金 哲一 <sup>①</sup>	楠井 隆明 <sup>②</sup>	後藤 諭一 <sup>③</sup>	媚山 正人 <sup>①</sup>	
		小山 重芳 <sup>⑥</sup>	齋藤 隆 <sup>②</sup>	坂下 光博 <sup>⑥</sup>	佐々木徹雄 <sup>⑦</sup>	佐々木通彦 <sup>③</sup>	
		佐々木雄二郎 <sup>①</sup>	柴田 貢 <sup>③</sup>	進藤 恭司 <sup>⑥</sup>	新谷龍一郎 <sup>⑦</sup>	鈴木 貢 <sup>②</sup>	
		角谷 靖 <sup>②</sup>	関口 浩樹 <sup>⑪</sup>	惣田 敏也 <sup>③</sup>	高 喜久雄 <sup>③</sup>	高嶋 善昭 <sup>②</sup>	
		高橋 徳松 <sup>③</sup>	高橋 敏雄 <sup>⑧</sup>	高橋 秀樹 <sup>⑪</sup>	高橋 仁美 <sup>④</sup>	高橋 雄治 <sup>②</sup>	
		高島 嘉信 <sup>⑦</sup>	瀧田 勝彦 <sup>②</sup>	谷口 茂 <sup>①</sup>	谷脇 勝英 <sup>②</sup>	田村総司郎 <sup>①</sup>	
		鶴岡 久也 <sup>①</sup>	富居 誠吉 <sup>⑧</sup>	中里 幸生 <sup>③</sup>	永田 勇 <sup>②</sup>	中田 光彦 <sup>③</sup>	
		中谷 登 <sup>②</sup>	中村 彰利 <sup>⑩</sup>	長屋 修二 <sup>②</sup>	濁沼 一三 <sup>⑧</sup>	西 康子 <sup>③</sup>	
		西館 勝友 <sup>⑨</sup>	西野目信雄 <sup>②</sup>	西村 仁 <sup>①</sup>	西森 和弘 <sup>②</sup>	西山 陽一 <sup>⑦</sup>	
		新田三千明 <sup>⑨</sup>	野村 幸生 <sup>⑥</sup>	長谷川敦彦 <sup>④</sup>	畠山 好司 <sup>②</sup>	濱岡 雄史 <sup>①</sup>	
		濱塚 隆志 <sup>⑧</sup>	浜松 義弘 <sup>②</sup>	久木佐知子 <sup>②</sup>	藤田 哲也 <sup>③</sup>	堀水 享 <sup>⑩</sup>	
		本田 秀明 <sup>①</sup>	松尾 彰久 <sup>②</sup>	松田 誠一 <sup>②</sup>	三浦 邦昭 <sup>⑦</sup>	美浪 利光 <sup>②</sup>	
		宮田 晃彦 <sup>③</sup>	武蔵 弘毅 <sup>④</sup>	村本 洋 <sup>⑧</sup>	森川 時夫 <sup>⑥</sup>	盛永 喜之 <sup>③</sup>	
		矢澤 勝己 <sup>③</sup>	安田 盛雄 <sup>⑥</sup>	山内 一頼 <sup>③</sup>	山内 朋幸 <sup>①</sup>	山口 勇 <sup>⑫</sup>	
		山崎 與吉 <sup>⑧</sup>	山下 裕久 <sup>⑦</sup>	山本 淳一 <sup>④</sup>	湯浅 義弘 <sup>⑪</sup>	米嶋 均 <sup>①</sup>	
		六車 能久 <sup>⑩</sup>					
2区 (富良野地区)	10 (10)	浅田 正俊 <sup>⑧</sup>	荒木 毅 <sup>⑧</sup>	北川 昭雄 <sup>②</sup>	栗山 卓也 <sup>③</sup>	齊藤 亮三 <sup>⑥</sup>	
		永井 敏広 <sup>③</sup>	西塚 邦夫 <sup>②</sup>	西本 伸顕 <sup>②</sup>	増田 修一 <sup>②</sup>	湯浅 篤 <sup>②</sup>	
3区 (札幌地区)	12 (12)	大作 佳範 <sup>②</sup>	大沼 輝臣 <sup>⑤</sup>	大畑 裕義 <sup>①</sup>	近藤 昇 <sup>②</sup>	関 寛 <sup>②</sup>	
		堂前 元良 <sup>⑤</sup>	中村 安雄 <sup>⑤</sup>	中山 輝善 <sup>②</sup>	橋本 昭夫 <sup>⑥</sup>	村上 幸三 <sup>④</sup>	
		師尾 仁 <sup>⑥</sup>	山仲 啓雅 <sup>③</sup>				

(2024年6月10日現在)

### <総代の属性別構成比>

職業別	法人役員 94.0%、個人事業主 2.5%、個人 3.3%
年代別	80歳代 12.7%、70歳代 39.8%、60歳代 34.7%、50歳代 11.8%、40歳代 0.8%
業種別	農業・林業・漁業 0.8%、建設業 30.7%、製造業 14.0%、電気・ガス・熱供給・水道業 0.8%、 運輸業・郵便業 3.5%、卸売業 11.4%、小売業 7.8%、金融業・保険業 1.7%、不動産業 3.5%、 物品賃貸業 0.8%、サービス業 16.6%、宿泊業 1.7%、飲食業 0.8%、娯楽業 1.7%、 医療・福祉 3.5%

※ 業種別の構成比は、法人・法人代表者、個人事業主に限ります。  
 ※ 構成比の単位未満は、切り捨てています。